



平成25年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年12月21日

上場会社名 株式会社ジーンズメイト 上場取引所 東
 コード番号 7448 URL <http://www.jeansmate.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西脇昌司
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 砂田真一 (TEL) 03(5738)5555
 四半期報告書提出予定日 平成24年12月28日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年2月期第3四半期の業績(平成24年2月21日～平成24年11月20日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年2月期第3四半期	7,921	△4.5	△186	—	△157	—	△316	—
24年2月期第3四半期	8,294	△22.2	△240	—	△215	—	△1,114	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
25年2月期第3四半期	△29.00		—					
24年2月期第3四半期	△101.94		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年2月期第3四半期	8,898	6,072	68.2
24年2月期	8,524	6,381	74.9

(参考) 自己資本 25年2月期第3四半期 6,072百万円 24年2月期 6,381百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年2月期	—	0.00	—	—	—
25年2月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年2月期の業績予想(平成24年2月21日～平成25年2月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,351	△1.6	△50	—	△25	—	△182	—	△16.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(その他)に関する事項 (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

25年2月期3Q	12,651,466株	24年2月期	12,651,466株
25年2月期3Q	1,723,629株	24年2月期	1,722,941株
25年2月期3Q	10,928,119株	24年2月期3Q	10,928,777株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料3ページ「(3) 業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(3) 追加情報	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
4. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間(平成24年2月21日から平成24年11月20日まで)におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要などを背景に回復の兆しが見えてきたものの、欧州の債務問題や円高の長期化などにより、先行き不透明な状況が続いております。また、所得や雇用の不安などによる個人消費の停滞も続いており、依然として厳しい経営環境となりました。

このような経営環境のもと、当社では早期に黒字化を実現するためにJEANS MATE業態の収益力回復と新業態店舗の確立に向けて取り組んでまいりました。

商品面におきましては、期間を通してTシャツ類全般が苦戦し、ショートパンツ類も前年を下回る水準で推移いたしました。一方、シャツやポロシャツなどの商品群は好調であったことに加え、これまで苦戦していたデニム5ポケットも前年を上回る水準まで復調いたしました。また、当事業年度より本格的に取組みはじめたプライベートブランド「BLUE STANDARD(ブルースタンダード)」につきましては、服飾雑貨も含めた幅広い商品を投入しながら、着実に売上を伸ばしてまいりました。

販売面といたしましては、「BLUE STANDARD」を中心に認知度の向上等を目的としたファッション雑誌への出稿やスマートフォン向けのホームページを立ち上げ、メールや会員様限定クーポンの配信などによりお客様へダイレクトに情報発信することにも取り組んでまいりました。また、休止しておりましたインターネット通販を10月より自社サイトにて再開いたしました。

出退店につきましては、出店が6店舗(「JEANS MATE」1店舗、「ワケあり本舗」5店舗)、退店が16店舗(「JEANS MATE」6店舗、「アキバあそび館」、「ワケあり本舗」、「blue bell market」各2店舗、「Happy Door」、「ゼログラ」、「PLAINN」、「coton terrasse」各1店舗)となり、当第3四半期会計期間末の総店舗数は107店舗(うち24時間営業店舗は17店舗)となりました。また、8月には物流機能の合理化を目的に「相模原物流センター(神奈川県愛甲郡)」を閉鎖し、「戸田センター(埼玉県戸田市)」に集約いたしました。

以上の結果、売上高79億21百万円(前年同四半期比4.5%減)、営業損失1億86百万円(前年同四半期は営業損失2億40百万円)、経常損失1億57百万円(前年同四半期は経常損失2億15百万円)、四半期純損失3億16百万円(前年同四半期は四半期純損失11億14百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ3億73百万円増加し、88億98百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べ4億82百万円減少し、53億7百万円となりました。これは主に商品が6億22百万円増加しましたが、有価証券が6億95百万円減少、現金及び預金が4億49百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ8億56百万円増加し、35億91百万円となりました。これは主に敷金及び保証金が1億35百万円減少しましたが、投資有価証券が9億89百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ6億82百万円増加し、28億25百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べ7億20百万円増加し、20億9百万円となりました。これは主に買掛金が6億91百万円増加したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ37百万円減少し、8億16百万円となりました。これは主に資産除去債務が37百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べ3億9百万円減少し、60億72百万円となりました。これは主に四半期純損失を3億16百万円計上したことによるものであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

本資料に記載されている業績予想につきましては、平成24年9月18日に公表いたしました「特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」の記載から変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(3) 追加情報

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社は、前事業年度において営業損失2億12百万円、当期純損失11億54百万円となり、当第3四半期累計期間においても営業損失1億86百万円、四半期純損失3億16百万円となりました。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該状況を解消又は改善すべく、販売力強化と経費削減による収益力の回復に取り組んでまいります。

① 品揃えの拡充と売場の再構築

従来の品揃えに加え、30～40歳台のお客様をコアターゲットとしたプライベートブランド「BLUE STANDARD(ブルースタANDARD)」を立ち上げ、幅広い年齢層に対応できるよう努めてまいります。また、「BLUE STANDARD」ブランドを軸にバッグや靴などの服飾雑貨も含めた幅広い商品を投入することで、従来の量販型の売場からコーディネートでご提案する売場を構築してまいります。一方、当該商品を品揃えの柱とした新業態店舗の開発も進めてまいります。

② ワケあり本舗業態の確立

ロープライス(アウトレット)業態の「ワケあり本舗」は、一定の集客効果が確認できたことから、商品構成等の検証を行いながら、新たな収益モデルとして確立するよう引き続き努めてまいります。当第3四半期累計期間には5店舗の新規出店と2店舗の退店を行った結果、当第3四半期会計期間末で18店舗体制(他、短期契約店舗4店舗)となりました。

③ 各業態の検証

これまで、マスマーケットに向けた「JEANS MATE」、ロープライス型の「ワケあり本舗」、女性の生活を楽しくする「Happy Door」などを展開してきましたが、今後は各業態の業績の検証を進め、不採算店(業態)については撤退することも視野に入れ検討してまいります。

④ 不採算店の撤退促進

前事業年度では合計14店舗を閉鎖いたしました。引き続き店舗ごとの業績について検証を行い、将来性の乏しい店舗については撤退を促進し、経営資源を集中させてまいります。当第3四半期累計期間には16店舗を閉鎖いたしました。

⑤ 固定費のさらなる圧縮

これまでも不採算店の撤退や本社事務所の縮小を行っており、物流関連におきましても商品配送頻度の見直しや物流センターの合理化(2センターを1センターに統合)などを行ってまいりました。今後につきましても、各種経費の削減に引き続き努めてまいります。

上記を中心とした施策を講じながら収益力の回復に努めてまいりますとともに、今後の運転資金は十分に確保できていることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

4. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年2月20日)	当第3四半期会計期間 (平成24年11月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,739,423	1,289,810
売掛金	138,935	220,289
有価証券	1,898,402	1,202,720
商品	1,835,916	2,458,260
その他	176,752	136,082
流動資産合計	5,789,430	5,307,164
固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	543,459	1,533,190
敷金及び保証金	2,187,133	2,051,894
長期未収入金	298,965	298,065
その他	4,864	6,429
貸倒引当金	△298,965	△298,065
投資その他の資産合計	2,735,457	3,591,514
固定資産合計	2,735,457	3,591,514
資産合計	8,524,888	8,898,678
負債の部		
流動負債		
支払信託	261,303	258,953
買掛金	281,755	972,803
賞与引当金	57,794	7,492
ポイント引当金	159,472	171,467
店舗閉鎖損失引当金	27,908	18,386
資産除去債務	56,409	37,933
その他	444,851	542,528
流動負債合計	1,289,495	2,009,565
固定負債		
資産除去債務	511,715	474,581
長期未払金	335,877	335,877
その他	5,940	5,940
固定負債合計	853,532	816,398
負債合計	2,143,027	2,825,964
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,015,812	2,015,812
資本剰余金	2,125,434	2,125,434
利益剰余金	3,512,673	3,195,800
自己株式	△1,259,364	△1,259,572
株主資本合計	6,394,556	6,077,474
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△12,695	△4,760
評価・換算差額等合計	△12,695	△4,760
純資産合計	6,381,861	6,072,714
負債純資産合計	8,524,888	8,898,678

(2) 四半期損益計算書
第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成23年2月21日 至平成23年11月20日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年2月21日 至平成24年11月20日)
売上高	8,294,087	7,921,979
売上原価	4,132,542	4,111,342
売上総利益	4,161,544	3,810,637
販売費及び一般管理費	4,402,071	3,997,488
営業損失(△)	△240,526	△186,850
営業外収益		
有価証券利息	16,915	24,223
受取賃貸料	7,656	8,910
その他	10,305	16,189
営業外収益合計	34,877	49,323
営業外費用		
投資事業組合運用損	1,514	435
投資有価証券償還損	—	9,325
賃貸費用	7,656	8,910
その他	732	1,773
営業外費用合計	9,902	20,444
経常損失(△)	△215,552	△157,971
特別損失		
減損損失	440,053	98,702
店舗閉鎖損失	24,781	5,727
店舗閉鎖損失引当金繰入額	39,398	18,386
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	360,519	—
特別損失合計	864,753	122,816
税引前四半期純損失(△)	△1,080,305	△280,788
住民税	33,772	36,085
四半期純損失(△)	△1,114,077	△316,873

- (3) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。
- (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。